

北海道大学交流デー（オックスフォード大学）を開催

オックスフォード大学との共同研究及び学生交流を更に促進するため、3月16日（火）、17日（水）、23日（火）の3日間に渡って、北海道大学交流デーを開催しました。

初日となる16日（火）の全体会には、本学から横田 篤理事・副学長をはじめ教職員約60名が参加しました。全体会では、欧州ヘルシンキオフィス所長の田畑伸一郎教授が司会を務め、はじめに横田理事・副学長とオックスフォード大学考古学研究所所長であるChris Gosden教授から挨拶がそれぞれ行われました。続いて、薬学分野における研究・教育交流について大学院薬学研究院・国際連携研究教育局バイオサーフィス創薬グローバルステーション長の前仲勝実教授から、また、文化人類学・考古学分野における研究・教育交流についてアイヌ・先住民研究センター長の加藤博文教授から、それぞれ紹介が行われました。

分科会は、16日（火）、17日（水）及び23日（火）に国際連携研究教育局（GI-CoRE）の活動において特に密接

な関係を持つ薬学分野、文化人類学・考古学分野の2つの分野で以下の通り実施されました。

今後も国際連携機構では、英国をはじめとしたヨーロッパにおける教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生

の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していきます。

（国際連携機構、大学院薬学研究院、アイヌ・先住民研究センター）



挨拶を行う横田理事・副学長



挨拶を行うGosden教授



全体会の様子

3月17日（水） 分科会（第1回GSD/GI-CoRE国際シンポジウム／第26回ファーマサイエンスフォーラム）

機能強化経費“バイオサーフィス国際連携研究教育拠点の構築”の下、令和2年3月にスタートした国際連携研究教育局バイオサーフィス創薬国際連携拠点GSD（Global Station for Biosurfaces and Drug Discovery）/GI-CoREのキックオフシンポジウムとして、第1回GSD/GI-CoRE国際シンポジウム・第26回ファーマサイエンスフォーラム・創薬センター合同シンポジウムを開催しました。

シンポジウムには、ウイルス・免疫学分野及び構造生物学の分野において顕著な業績のある、オックスフォード大学のSarah Rowland Jones教授、Simon Davis教授、ヘルシンキ大学のJuha Huiskonen准教授をお招きしました。第一線で活躍中の研究者から直接、最新の知見をお話いただき、創薬へ向けた戦略を知る貴重な機会となりました。また、本学教員3名が最先端イメージング研究から天然

化合物を利用したバイオサーフィス・創薬モダリティー研究の成果を発表しました。参加者は本学及びオックスフォード大学のほか、国内他大学を併せて計130名に上りました。（写真4）。学生を含む多くの参加者から様々な質問がオンラインのchatで寄せられ、講演者との間で活発な質疑応答が行われました。

今後、このシンポジウムで得た知見が新型コロナウイルス感染機構の解明



国際シンポジウムの様子



オンラインメンタリングの様子

や治療薬・ワクチン開発へとつながり、また、今回の講演者である3名の先生方には上述のようにGSD/GI-CoREメンバーとして、来年度以降もオックスフォード大学との間でより充実した交流・連携を行っていくことで、グローバルな創薬研究教育拠点へと発展する

ことが期待されます。

さらに、3月16日（火）には、GSDメンバーに参画予定のRowland Jones教、Davis教授、Huiskonen准教授（P31写真右）に学部生及び大学院生の指導をオンラインでいただきました。研究室に配属済みの学生たち

が英語で自分の研究を説明し、それに対してアドバイスをいただく形で少人数のオンラインメンタリングとして実施しました。このオンライン指導を来年度のHSIサマーインスティテュートの講義にも活かす予定です。

3月23日（火） 分科会（オンラインワークショップDiscourse on Cultural Diversity: Beyond Archaeology and Anthropology）

4月1日（木）発足のGI-CoRE 8 番目のグローバルステーションGSI（先住民・文化的多様性研究グローバルステーション）へとつながるオンラインワークショップDiscourse on Cultural Diversity: Beyond Archaeology and Anthropology を行い、18名が参加しました。

アイヌ・先住民研究センター長の加

藤教授の挨拶及びGSIの紹介に続き、若手研究者4名による人類生態学と考古学に関する研究発表が行われ、オックスフォード大学の考古学研究所のChris Gosden教授（北海道大学アンバサダー）とRick Schulting教授、社会・文化人類学研究所のStanley Ulijaszek教授、ニッサン研究所のSho Konishi教授らからコメントや質問が

行われました。ワークショップ後半では、GSIに参画が予定されている本学とオックスフォード大学のメンバーによる研究テーマや課題についてのフリートークが行われ、本学GSIをプラットフォームとして展開される共同研究と新たな研究シーズの開拓へ期待が寄せられました。



オンラインワークショップの様子